

COLUMN ▶ 選べる制服の普及

生徒から「なぜ女子はスカートの制服しか着てはダメなのか」という提案を受け、方城中では昨年4月から選択制の新制服(写真)を導入。男女平等・SOGIなどに配慮した制服の導入は全国的に普及しており、来年4月からは金田義務(後期)でも導入が決定している。



**高本** 決めつけや思い込みで、異性に対するものだけでなく、女性自身が「女性ならこうすべき」「男性自身が「男性ならこうすべき」と思っている節もありますよね。ジェンダー平等を実現するためには「現在、当たり前とされていることを疑って、そ

れに対して色々な回答や選択肢があつていい」と思うことが大切ですよ。

**坂無** そのためにはいろんな人や価値観と出会い、知識や考えなどを情報交換することが大切になってきそうです。

**高本** 男女格差や決めつけ・思い込みのせいで、社会や地域で活躍できるのに、力を抑制されている女性たちが今もなおたくさんいると思います。日本の約半分は女性なのに、女性だからという理由だけで力を発揮できないのはどう考えても変だし、社会・地域的に考えても本当に損してると感じますね。

**坂無** 男性も、決めつけや思い込みが強いと自分自身がしんどくなると思うんです。例えば、「男性は仕事をして家計を支えるべきだ」「男性は人前で泣くべきではない」などの思い込みが強い

と、どれだけしんどくても仕事はやり続けたいといけなくなるし、つらいことがあつても相談できずに孤立したりしますよね。

**高本** そう考えると、男女平等を実現することは、女性だけではなく、みんなにとってメリットになることなんです。

**坂無** これまでも男女平等な社会を実現するために、歴史で習うような人だけでなく、それぞれの地域で活動してきた人たちが、おかげで、男女格差は昔に比べて改善されてきました。このように今を生きる私たちひとり一人が考え方を取替えて取り組みを行えば、制度もさらに充実し、みんなが生きやすい社会を実現できる。私たちが先人たちの取組から恩恵を受けているように、次世代を生きる人へみんなが生きやすい社会のバトンを渡していきたいですね。

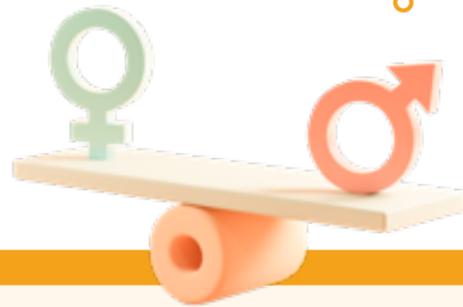
男女格差のない社会を実現するため、世界経済フォーラムが毎年公表している、「男女格差の度合いを示す「ジェンダーギャップ指数」。先進国である日本では高順位かと思いきや、昨年6月に発表された最新のデータでは、146カ国中118位(前年順位125位)と他国に比べて「ジェンダーギャップ」男女格差を是正できていないという結果が出ています。

女性が「はたまた日本に暮らす全員が、さらに輝ける社会にしていきたい」という結果が出ています。

福智町男女共同参画審議会委員を務める、福岡県立大学で教鞭をとる坂無淳准教授と、ニュージージーランドや中国・上海などでの豊富な海外経験をもつ高本友紀さんに対談していただきました。

スペシャル対談

みんなが生きやすい社会を未来へつなぐ。



日本における女性就業者数の推移



**高本** でも、まだ「男性は外で働き、女性は子育てや家事に従事する」みたいな、性別による決めつけや思い込みがまだまだありますよね。

**坂無** そのようなものも関連して、政府などの調査では多くの男性・女性が、職場や家庭生活など多くの場ですでに「男性の方が優遇されている」と回答しているそうです。

**高本** 私が18年前に暮らしたニュージージーランドでは、その当時から男性が普通に料理するし、ベビーカーを引いていました。今では女性首相が3人も誕生していて、育休まで取得したそうです。そう考えると、男女平等という面では日本はまだ遅れているなど感じます。

**坂無** ニュースなどでも取り上げられる「グローバル・ジェンダー・ギャップ」では、医療や教育の平等では世界トップレベルと大きく

性別による無意識の決めつけや思い込みの一例

- ▶ 家を継ぐのは男性であるべきだ
- ▶ 共働きで子どもの具合が悪くなった時は母親が看病すべきだ
- ▶ 自治会や町内会の重要な役職は男性が担うべきだ
- ▶ 職場では女性が男性のサポートに回るべきだ
- ▶ デートや食事のお金は男性が負担すべきだ
- ▶ 仕事で成功していても結婚していない女性は何か足りないと思う
- ▶ 同程度の能力なら男性から昇進させたり管理職に登用するものだ

**坂無** 最近、学生たちから「これまでの学校生活では男女格差をあまり感じなかった。ただ、仕事に就くとどうなんだろう」という話をよく聞きます。

**高本** 今では、ジェンダーに対する価値観が普及し、少しずつ制度も充実してきたことで働く女性や女性管理職の数も昔に比べて大きく上昇してきましたよね。

は変わらない日本ですが、政治や経済での平等では世界でも遅れを取っています。その原因の1つとして「男性ならこうすべき、女性ならこうすべき」といった性別による無意識の決めつけや思い込みがあるかもしれませぬ。

PICK UP BOOKS !



いろいろななかぞくのほん  
メアリ・ホフマン ぶん / ロス・アスクイス エ / すぎもとえみ やく (少年写真新聞社)



福智町男女共同参画審議会委員  
高本 友紀 さん

大学卒業後、高社に入社。女性初のプロジェクトリーダーを任され、アジアを中心に飛び回る。その後、本格的に英語を学ぶためニュージージーランドへ留学。語学を生きし上海で働いていたが結婚を機に筑豊へ戻り、現在は夫の経営する会社に勤務。

▶ ふくちのちの蔵書から男女平等に関する本を2冊紹介



女性学・男性学 ジェンダー論入門  
伊藤公雄・樹村みのり・國信潤子 / 著 (有斐閣アルマ)



福岡県立大学准教授  
坂無 淳 さん

福智町男女共同参画審議会委員。専門は社会学とジェンダー研究。山形大学男女共同参画推進室、立教大学コミュニティ福祉学部を経て、平成29年から福岡県立大学人間社会学部にて教員を務める(担当科目はジェンダー論、社会統計学Ⅰ・Ⅱほか)。